

こんにちは

Nice Town
Good People

町会です 40号

私たちが暮らす中央区は、定住人口が順調に増え続け、まちはにぎわいと活気にあふれています。170を超える町会・自治会があり、祭りや町内の清掃、住人同士の親睦を深めるイベントの開催など、住みよい地域社会をつくるための活動は様々。「こんにちは町会です」は、そんな町会・自治会の活動を担う方々のまちへの思いをお伝えします。

築地町自治会



今回ご紹介する町会・自治会

- 【京橋地域】築地町自治会……………2P
- 【日本橋地域】大伝馬町二之部町会……………3P
- 【月島地域(晴海地区)】晴海自治会……………4P



晴海自治会



大伝馬町二之部町会

「こんにちは町会です」のバックナンバーはこちら ▶

町会・自治会

についてのお問合せは…

- | | | |
|-----------------|----------|------------------|
| ■京橋地域…………… | 区民部地域振興課 | TEL：03-3546-5336 |
| ■日本橋地域…………… | 日本橋特別出張所 | TEL：03-3666-4251 |
| ■月島地域(晴海地区を除く)… | 月島特別出張所 | TEL：03-3531-1151 |
| ■月島地域(晴海地区)… | 晴海特別出張所 | TEL：03-3520-8096 |

変化するまちの中で、自治会の新たな意義をさがす

築地町自治会 会長 江間正昭さん
副会長・総務部長 森田俊秀さん



江間会長



森田副会長・総務部長

遊んで学べる フェスティバルを開催

江戸時代、海を埋め立てて新たな土地が築かれたことにより生まれたまち・築地。かつては武家屋敷が数多く建ち並んでいた地域で、現在は中央区役所や築地警察署、築地本願寺なども位置する築地一丁目、二丁目、三丁目で構成されているのが築地町自治会です。「私の記憶では自治会は昭和29年に立ち上がり、今年度で71期目です。以前は一丁目、二丁目、三丁目それぞれに町会がありましたが、区画の変更があったこともあり、3町会をひとつににして今の自治会の形になりました」と話すのは江間会長。「私が小さい頃は、商人や職人が多く、芸者さんなども住んでいました。今は企業のオフィスやマンションが増えて、自治会に加入しているのはおよそ300世帯弱です」と付け加えるのは、総務部長も務める森田副会長です。

築地町自治会が力を入れている行事が、毎年7月に行われる「築地よいこのフェスティバル」。その歴史は

築地よいこのフェスティバル
ゲームコーナー

およそ50年と長く、中央区内の各町会・自治会で行われている「子ども祭り」の先駆けともいえるイベントです。青年部や婦人部が中心となって模擬店やゲームコーナーを準備し、当日は多くの子どもたちでにぎわいました。このイベントは、「ただ遊ぶだけでなく、何か意味を持たせたい」という思いから、地元の築地警察署と連携し、夏休みに入る前の子どもたちに交通道徳や防犯意識について啓蒙するために始まったもの。夏休みを安全に過ごすための心構えを警察官から直接聞ける機会にもなっています。



築地よいこのフェスティバル

秋の恒例行事が、毎年11月に行われる日帰りバスツアー。今年は紅葉が美しい那須で牧場ランチやサファリパークを堪能しました。毎年この行事を楽しみにしている方もいる、新規会員の勧誘や自治会員の親睦を深める人気のイベントです。

自治会に興味を持ってもらえる 行事をつくりたい

その他にも、婦人部が中心となって毎月1回行われる清掃活動や11月と2月に行われる夜警(夜回り)など、安全・安心な生活のための取り組みを行う築地町自治会。一方で自治会の加入者を増やすことには苦勞もありま

す。「夜警は以前より早い時間に行い、子どもも参加できるようにしました。よいこのフェスティバルもそうですが、一緒に参加してくれた親御さんに自治会への協力を呼びかけています」と森田副会長。江間会長は「私はかつてコーヒー専門店を営んでいて、お店が住民の交流の場になっていました。そうした中で自然とまちづくりに興味を持ち、自治会活動に参加した経緯があります。今ではそうしたお店も減り、サラリーマンとしてまちの外で働いている若い方も多いため、自治会の活動に参加しにくくなっているかもしれません」と現状を語ります。「私は会長になって10年目ですが、5年目のときにコロナ禍があり、以降フェイス・トゥ・フェイスで話す機会が大きく減りました。SNSなどで要件は伝えられますが、経験則からやはり直接顔を合わせて話す機会がもっと必要だと感じています」。

まだ構想の段階ですが、シニアが運動をするきっかけになるようなスポーツイベントや、自転車の危険運転への厳罰化に向け、大人も子どもも参加できる「自転車の乗り方教室」など、みなさんに興味を持ってもらえる行事を開催したいと語るお二人。「食のまち」として大きな変化を遂げつつある築地で、昔からのまちの良さを活かしながらどのよう自治会の活性化につなげていくか、前を向いて模索を続けています。

築地よいこのフェスティバル
ゲームコーナー

所属する町会・自治会を調べる

中央区には、一流ブランド店や老舗、食のまちがある「京橋地域」、金融街や老舗百貨店などが連なる歴史ある「日本橋地域」、超高層マンションが立ち並ぶ未来都市と下町情緒にあふれた路地が混在する「月島地域」の3つの地域が

あります。そして、その中には173の町会・自治会が区域を分けて活動しています。お住まいのご住所が所属する町会・自治会が分からないときは、「町会・自治会MAP」で確認してみてください。



町会・自治会MAP▲

日本橋
地域京橋
地域月島
地域

葛屋重三郎活躍の地で江戸文化を継承する

大伝馬町二之部町会 会長 瀧健太郎 さん



瀧会長



日本橋大伝馬町池洲夏祭り

江戸時代の一大商業地で 事業者が地域を支える

江戸で最初にできたまち、江戸本町の次に置かれ、まさに江戸の商業の中心として栄えた大伝馬町。城下の目抜き通りである本町筋(現在の旧日光街道)を挟む5区画からなる町会が大伝馬町二之部町会です。かつては旧日光・奥州街道沿いに呉服問屋をはじめ薬種問屋や紙問屋、木綿問屋などが軒を連ねていたそうです。そんな街の歴史を教えてくださったのは、会長の瀧さん。曾祖父の代にこの地で事業を興し、代々町会にも関わってきたそうです。「当時あった大店の問屋の多くが現在は大型のオフィスビルや企業となっていて、町会のあり方は少し特殊です。町会員はビルオーナーや企業といった法人会員が主体となっており、マンション等にお住まいの個人会員の方は限られています。」江戸時代から商人が盛り立ってきたまちだけに、現在も事業者を中心にまちを活気づけています。その好例が、7月に開催される御神輿と山車の「日本橋大伝

馬町池洲夏祭り」です。「町内はもともと年始の木遣りなど伝統的な風習が残る町ですが、大手



御神輿と山車

の企業が本社をこちらに構えられた際に、地域貢献として町内で夏祭りを始めてくださいました。そこで、私の父親が御神輿と山車の渡御を提案したところ、その企業に賛同いただき、御神輿と山車を寄付していただけることになりました。お祭りには地域の児童館に通うお子さんや住民たちの参加はもちろん、会社ぐるみで参加される方も多く、赴任した社員の方が地域に親しむいい機会になっているそうです。御神輿と山車は、普段は町内の池洲神社横の建物に納められており、ショーウィンドウにライトアップされた姿を見ることができま

ドラマで取り上げられ 一躍注目の観光地に

現在、特に力を入れているのが、大伝馬町周辺で江戸時代に活躍した「メディア王」葛屋重三郎にまつわる観光への対応です。2025年にNHK大河ドラマ『べらぼう』が放送され、町内の観光は大賑わい。「近隣の町会と連携して、まず、歴史に造詣が深い専門家による勉強会を開き観光の案内

に十分な知識を身に付けました。さらに、ギャラリーなどの観光スポットを用意した他、観光



葛屋重三郎勉強会案内チラシ

スポットを巡るスタンダラーも企画・実施しました。その他、浮世絵を広めた葛屋重三郎にちなみ、日本橋の街角に浮世絵のポスターを展示しているそうです。このような規模の大きい催しができるのは、まさに日本橋ならではの誇りを感じていることで、近隣の町会同士が協力し合えることにはありますね。



勉強会の写真

事業者が中心となって日本橋という誇りを共にする大伝馬町二之部町会。最後に町会の今後について瀧会長が語ってくれました。「法人会員が主体である、当町会に合う町会活動のあり方を、先人達の作り上げてきた伝統を重んじながら、町会員の皆さんと考え、これからも進めていきたいと思っています。事業者の皆さんの力が活かされるまちをおこしに、これからも期待が高まります。」



日本橋大伝馬町池洲夏祭り

インターネットでまちの情報を知る

中央区ホームページでは、町会・自治会の区域や主な活動等を紹介している他、このホームページ経由で、町会・自治会に関する情報を発信するためのSNS(中央区町会・自治会ネット)の情報も見ることが

ができます。また、独自でSNSを立ち上げ、まちのイベント情報を発信している町会・自治会もあります。ぜひ、SNSで町会名・自治会で検索してみてください。



▲中央区ホームページ内町会・自治会ページ



変わりゆくまちで暮らしを守り、楽しみを育む

晴海自治会 会長 中澤 孝子さんと自治会役員のみなさん



中澤会長



(左から) 中澤会長、青柳さん、荒川さん、宮本さん、望月さん

世代を超えて楽しめる 数々の恒例行事

晴海地区は再開発によって大きく姿を変えてきました。「昔は緑が豊かで、避暑地のようだとわれたほどです」と昔のまちの様子を覚えてくれたのは中澤会長です。1955年には「晴海埠頭」が開業し、「東京国際見本市会場」も建設されました。「東京モーターショー」をはじめ、数々のイベントが開催され、冬にはスケートリンクとしても利用されていきました。まちの景色は大きく変わりましたが、長年培われてきたコミュニティの温かさは今も受け継がれています。

晴海自治会で大人気なのが、日帰りバス旅行です。年に一度のこの行事には、毎回大型バス2台が用意され、60〜70人の住民が参加します。昨年はみかん狩りを楽しみ、今年はきのこ狩りや、銚子電鉄に乗車し、香取神宮を訪れました。役員のみなさんは「参加された方々が楽しかったと喜んでくださるのが励みになります」と、笑顔で語っていました。

また、連合町会が主催する盆踊り大会にも積極的に取り組んでいます。夕方には輪投げやヨーヨー釣りなど、子ども向けの縁日があり、夜になると盆踊りが始まり、会場は大きな盛り上がりを見せます。役員のみなさんも当日に向けて練習を重ねるほど熱心です。

命と安心を守る活動と 高層住宅ならではの工夫

住民の安全・安心を守るための活動にも力を注いでいます。毎年2月に行われる防災訓練では、起震車を借りて過去の地震の揺れを体験し、多くの住民が自主的に参加しました。今回は災害時に重要な課題となる携帯トイレの使用訓練を計画しています。20年以上続いている年末の夜警は、近隣の町会・自治会と合同で行われ、豚汁やおしるこなど温かい食事が振る舞われ、住民同士の交流が深まります。さらにクリーンデーには約40名の住民が参加し、落ち葉などを清掃しており、住民の環境美化意識の向上につながっています。



防災訓練



クリーンデー

所有している駐車場を割安で利用できるため、マンションに住んでいる親の介護などで遠方から車で訪れる際、一時的に駐車場を使いたいご家庭にとって、大きな助けとなっています。ここで得られた資金は防災ヘルメットの購入など、会員の安全とまちの利便性を高めるために活用されています。また、年3回発行される、「自治会新聞「はるみ」」は長年にわたり、住民に自治会活動の報告や今後の予定などを伝えることで、地域コミュニティの活性化に役立っています。

晴海地区では子育て世代や外国人など新しい住民が増えています。現在、自治会の会員数は約330人、518世帯ですが、若い世代の加入者をもっと増やしたいと考えています。加えて、活動を支える役員の確保は大きな課題となっています。役員のみなさんは「やってみると仲間との交流もあり、やりがいも感じられて楽しく活動しています」と話します。

中澤会長はこのまちの魅力として「住んでいる人が穏やかであること」を挙げます。そして「次の世代の若者が大人になったとき、もし日本が今ほど豊かでなくなったらとしても、このまちでどう生きていくのかを見届けたい。それまで頑張らなきゃね」とあたたかなまなざしで語りました。



自治会新聞「はるみ」

① まちかどでまちの情報を知る

まちかどの掲示板では、区政情報だけでなく、みこしの担ぎ手募集や餅つき大会の日などに、四季折々の情報にあふれています。ちょっと立ち止まって見ると、あなたがときめく出会いがあるかも。令和元年台風15号による千葉県の大規模停電の際、通信障害が発

生し、インターネットなどを利用した連絡・情報取得手段が使用できない中、まちの掲示板がオフラインでも活用できる連絡手段として活躍した事例もありました。

